

2025年02月18日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【不確実の時】

外国為替相場に関わるようになって、40年以上の時が過ぎた。

振り返ると、いつの時代も不確実だったのだが、現在と比較すると、過去は不確実の中にも、ある程度の確実性が担保された事象が多かったように思える。

+++++

現在の不確実性は、トランプ大統領に起因する事象が多い、と考えます。

ガザ情勢に関しても、トランプ大統領の発案は、大きな問題を含んでいる、と考えます。

トランプ大統領は、ガザを米国が所有し、そこに住むパレスチナ人 200 万人を近隣諸国に移住させる案を提示している。

ガザを米国が所有することに、なんらの根拠も無い。

なおかつ、国連は、占領地での住民の強制移住は国際法上禁じられている旨警告している。

感覚的に述べるならば、ロシアがウクライナの国土を占有していることと同じ、あるいは、それ以上に無茶苦茶な論理に感じる。

トランプ大統領のガザに関する提案は、「ダブルスタンダード」の典型だ。

大国ならば、何をしても良いのならば、世の中の道理は通用しない。

しかしながら、トランプ氏が米国大統領である間は、何が起こるのか、わからない、としか言い様がなさそうだ。

根拠の無い事柄を強引に認めさせる行為は、到底、認められないのだが、世界中が、それ(トランプ大統領の行動・発言)に振り回されることになるからだ。

+++++

トランプ大統領は、米国を再び偉大にする、と述べているが、結果的には、米国の凋落を加速させることになるのではないかと危惧している。

米国が世界ナンバーワンであり続けることは、歴史的に考察するならば不可能だろう。

米国が、「世界の絶対的なリーダーであった」と呼べる頃は、米国が、「世界の警察」を自任した時期であった、と考えます。

その頃は、米国は世界の嫌われ者であったかも知れないが、少なくとも、その根底には、米国自身が正義を自負する心があった、と考えます。

そして、その頃は、米国を嫌った国々（人々）も、悔しいながらも、米国に対して、いくらかのリスペクト（尊敬の念）があった、と考えます。

+++++

自らの利益のために、「ダブルスタンダード」を平然と公言するトランプ大統領を尊敬することは、個人的にはとても出来ない。

けれども、外国為替市場で生きるためには、トランプ大統領の政策（行動・言動）が、マーケット（外国為替市場）に、どのような影響を与えるのか、それを考える必要がある。

たとえそれが嫌いであっても。

たとえそれが理不尽であっても。残念ながら。

+++++

+++++

(2025年02月18日東京時間14:05記述)